

平成19年度 病害虫発生予察情報

発生予報第10号 (9月)

平成19年9月5日
島根県

予報の概要

| 区分 | 農作物名 | 病害虫名 | 予想発生量 | |
|------|---------|----------|-----------|-----------|
| 普通作物 | イネ | 穂いもち | 平年並 | |
| | | 紋枯病 | やや多い | |
| | | 白葉枯病 | 平年並～やや多い | |
| | | トビイロウンカ | 多い | |
| | | ツマグロヨコバイ | 平年並 | |
| | | 斑点米カメムシ類 | やや多い | |
| 果樹 | ダイズ | ハスモンヨトウ | 平年並～やや少ない | |
| | | ナシ | 黒斑病 | 平年並～やや少ない |
| | | | 黒星病 | 平年並～やや多い |
| | カキ | ハダニ類 | 平年並 | |
| | | 炭疽病 | 平年並～やや多い | |
| | | うどんこ病 | 平年並～やや多い | |
| 野菜 | キャベツ | カメムシ類 | やや少ない | |
| | | 黒腐病 | 平年並～やや多い | |
| | | 菌核病 | 平年並～やや多い | |
| | アブラナ科野菜 | アブラムシ類 | 平年並 | |
| | | コナガ | 平年並 | |
| | | アオムシ | やや少ない | |
| | | ハスモンヨトウ | 平年並～やや少ない | |

中国地方1か月予報 (9月1日～9月30日・広島地方气象台8月31日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)>

| | | | |
|------|---------|-----|--------|
| 気温 | 20% | 30% | 50% |
| 降水量 | 30% | 30% | 40% |
| 日照時間 | 40% | 40% | 20% |
| | 低い(少ない) | 平年並 | 高い(多い) |

防除所ではいもち病、水稻ウンカ類、コブメガ、果樹カメムシなどの最新情報をホームページ上に掲載しています。

アクセスはこちら <http://www.jpnn.ne.jp/shimane/>

A. 普通作物

1) イネ (主として普通期栽培地帯)

(1) 穂いもち

予報内容

発生地方

県下全域

発生量

平年並

予報の根拠

①いもち病の伝染源量は平年並み～やや少ないと推察される。

②9月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(2) 紋枯病

予報内容

発生地方 県下全域
発生量 やや多い

予報の根拠

- ①現在の発生量は平年並みである。
- ②9月の気象は、本病の発生に助長的である。

(3) 白葉枯病

予報内容

発生地方 県下常習発生地
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ①現在の発生量はほぼ平年並みである。
- ②9月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(4) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県下全域
発生量 多い

予報の根拠

- ①予察灯及び粘着誘殺灯での誘殺数はほぼ平年並みである。
- ②8月下旬の巡回調査では、寄生虫数は5.2頭/25株（平年11.3頭/25株、昨年：4.2頭）、発生圃場率は62.1%（平年：26.1% 昨年：58.6%）で過去10年間では平成10年（207頭/25株 92%）に次いで多い。
- ③9月の気象は本種の発生に助長的である。

(5) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方 県下全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ①予察灯での誘殺数は平年に比べてやや少ない。
- ②8月下旬の巡回調査では、寄生虫数は13.8頭/25株（平年79.8頭）、発生圃場率は79.3%（平年77.7%）で平年に比べてやや少ない。
- ③9月の気象は本種の発生に助長的である。

(6) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県下全域
発生量 やや多い

予報の根拠

- ①8月下旬の巡回調査では、カメムシ類の捕獲数は1.8頭/20回振り（平年4.4頭）、発生圃場率は61%（平年69%）で平年並みである。
- ②8月末までのアカスジカスミカメの予察灯（出雲市）への累積誘殺数は平年に比べてやや少ない。
- ③9月の気象は本種の発生に助長的である。

2) ダイズ

(1) ハスモンヨトウ

予報内容

発生地方 県下全域
発生量 平年並～やや少ない

予報の根拠

- ①フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の誘殺累積数は、平年比113.1%と平年並みである。
- ②8月末現在の巡回調査での本種幼虫による1 a 当たり白変カ所数は0.4カ所（平年1.0カ所）でやや少ない。
- ③9月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県下ナシ（二十世紀）栽培地帯
発生量 平年並～やや少ない

予報の根拠

① 8月末現在、発病葉率は20.2%（平年29.1%）で平年に比べてやや少ない。

② 9月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県下ナシ栽培地帯

発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

① 8月末現在、発病葉率は0.35%（平年0.38%）で平年並みである。

② 9月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(3) ハダニ類

予報内容

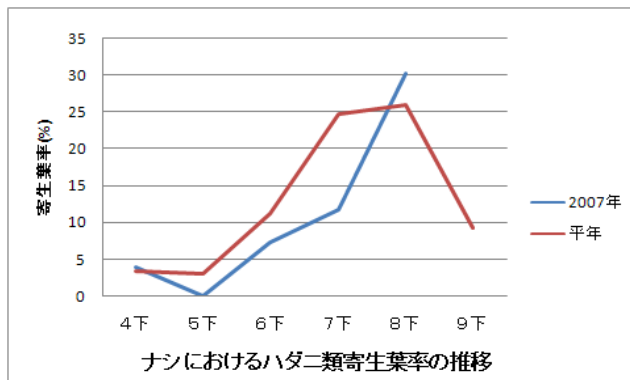
発生地方 県下ナシ栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

① 8月末現在、発生量は寄生葉率30.3%（平年26.0%）で平年並みである。

② 9月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。



2) カキ

(1) 炭疽病

予報内容

発生地方 県下カキ（富有など）栽培地帯

発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

① 8月末現在、発生量はほぼ平年並みである。

② 9月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(2) うどんこ病

予報内容

発生地方 県下カキ栽培地帯

発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

① 8月末現在、発病葉率は10.5%（平年13.6%）で平年並みである。

② 9月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(3) カメムシ類

予報内容

発生地方 県下カキ栽培地帯

発生量 やや少ない

予報の根拠

① 予察灯（出雲市）での8月下旬までのカメムシ類の誘殺数はやや少ない。

② 8月末現在、巡回調査での被害果率は0.04%（平年5.6%）とやや少ない。

③ 9月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

C. 野菜

1) キャベツ

(1) 黒腐病

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 9月の気象は、本病の発生にやや助長的である。
- (2) 菌核病
- 予報内容
発生地方 県下全域
発生量 平年並～やや多い
- 予報の根拠
① 9月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

2) アブラナ科野菜

(1) アブラムシ類

- 予報内容
発生地方 県下全域
発生量 平年並
- 予報の根拠

- ① 8月の黄色水盤への有翅虫の飛来量は平年並みである。
② 8月末現在、巡回調査による寄生株率は5.0% (平年8.6%) で平年並みである。
③ 9月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) コナガ

- 予報内容
発生地方 県下全域
発生量 平年並
- 予報の根拠

- ① 8月末現在、巡回調査による寄生株率は6.7% (平年5.3%) で平年並みである。
② 9月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) アオムシ

- 予報内容
発生地方 県下全域
発生量 やや少ない
- 予報の根拠

- ① 8月末現在、巡回調査による寄生株率は1.7% (平年7.2%) で平年に比べてやや少ない。
② 9月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(4) ハスモンヨトウ

- 予報内容
発生地方 県下全域
発生量 平年並～やや少ない
- 予報の根拠

- ① フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の誘殺累積数は、平年比113.1%と平年並みである。
② 8月末現在の巡回調査での寄生株率は0% (平年5.7%) で少ない。
③ 9月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

島根県病害虫防除所
(島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫グループ)
〒693-0035 出雲市芦渡町2440
TEL : 0853-22-6772
FAX : 0853-24-3342
ホームページアドレス <http://www.jpnpn.ne.jp/shimane/>